

住民主体のまちづくり

No.42 2017. 6

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ タケノコ掘り体験

地域で唯一孟宗竹のタケノコが生える観音寺地区で5月7日（日）午後1時、慈眼庵の広場に保護者が引率できる小学生以下など参加者10名余りが集り、まず実行委員の山根誠也さんから「竹の育成特性」の説明を聞きました。次にタケノコの生えている新宮神社の周辺の許可を受けた場所で、実行委員会が準備した専用の鍬で子ども達（5名）から挑戦が始まりました。



快晴で25℃以上の気温の中、汗だくになりながら女の子が慎重にタケノコの周りを掘っています。掘ったタケノコは全て持ち帰ることができ、保護者は子どもの挑戦に真剣な眼差しで見守っていました。

■ 特殊詐欺被害を防ぐ

地域モデル検証事業（その3）

それぞれの詐欺の認知度について、7月に実施した事前アンケートと比較をすると、「名前も手口も知っている」はオレオレ詐欺（80.0%→86.3%）、架空請求詐欺（57.5%→66.0%）、還付金等詐欺（63.8%→70.6%）、ギャンブル必勝法情報提供詐欺（27.3%→29.7%）で改善し、認知度が上がりま

した。一方、融資保証詐欺（34.7%→33.2%）、および未公開株勧誘詐欺（37.9%→37.4%）は、逆に認知度がわずかながら下がっています。

オレオレ詐欺について、全体では「名前も手口も知っている」が86.3%と、事前調査からは6ポイント改善し、認知度、理解度の大きな進展がみられました。

性別では、男女ともに「名前も手口も知っている」が9割弱と、ともに事前調査から大きく改善しています。特に、男性では「名前は知っているが、手口は知らない」が事前調査から10ポイント以上減少し、その分が「名前も手口も知っている」に移行した形となっていることから、より理解度が進展したものとみられます。

年代別では、50歳未満および50代では「名前も手口も知っている」がほぼ10割、60代および70代で8割台、80歳以上で7割半ばとなった。7月調査との比較では、「名前も手口も知っている」は50代、70代、80歳以上で改善しており、特に80歳以上では10ポイント以上改善し、名前だけでなく手口についての理解も進んでいる様子が見られる。



自分たちのまちは自分たちで（ つくる つなぐ つづける ）